



秋晴れの心地よい季節となりました。今月も最新トピックスをお届けします。

## 国内動向

### ① 改正安衛法のリスクアセスメント義務化に関する指針(厚生労働省)

厚生労働省は9月18日、改正安衛法のリスクアセスメント義務化に関する指針「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」を公表した。本指針は、労働安全衛生法第57条の3第3項の規定に基づき、事業者が、化学物質の危険性又は有害性等の調査(リスクアセスメント)を実施し、労働者の危険又は健康障害を防止するため必要な措置(リスク低減措置)が適切かつ有効に実施されるよう、リスクアセスメントからリスク低減措置の実施までの一連の措置の基本的な考え方及び具体的な手順の例を示すとともに、実施上の留意事項を定めたものである。本指針は平成28年6月1日から適用される。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000094015.html>

### ② GHS 混合物分類判定システム(ver 1.3)の公開(経済産業省)

経済産業省は9月17日、GHS混合物分類判定システム(ver 1.2)を修正し、新たにGHS混合物分類判定システム(ver 1.3)を公開した。ver 1.2からの修正箇所は眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性についてである。なお、本システムは、国連GHS文書改訂4版、JIS Z7252:2014、及び、GHS分類ガイダンスの内容に基づいた製品のGHS分類判定、ラベル要素の出力等に対応した機能を備えたものである。

[http://www.meti.go.jp/policy/chemical\\_management/int/ghs\\_auto\\_classification\\_tool\\_ver4.html](http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/int/ghs_auto_classification_tool_ver4.html)

### ③ 「水銀による環境の汚染の防止に関する法律施行令案等」に関する意見募集(環境省)

環境省は9月8日、「水銀による環境の汚染の防止に関する法律施行令案等」に関する意見募集を開始した。意見・情報受付締切日は10月7日である。

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=195150030&Mode=0>

## 海外動向

### ① 殺生物性製品規則に係る新しいガイダンスの公表(欧州化学品庁(ECHA))

ECHAは8月、殺生物性製品規則に係る新しいガイダンス「Guidance on the Biocidal Products Regulation, Volume V, Guidance on Active Micro-organisms and Biocidal products, Version 1.0, August 2015」を公表した。

このガイダンスは、活性物質が微生物の場合の活性物質及び殺生物性製品の評価に関する、情報要求、ハザード及びばく露評価、リスク特性化に関する技術的なアドバイスを提供する。

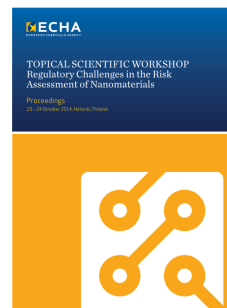
[http://echa.europa.eu/documents/10162/15623299/biocides\\_guidance\\_micro\\_organisms\\_en.pdf](http://echa.europa.eu/documents/10162/15623299/biocides_guidance_micro_organisms_en.pdf)



### ② ナノマテリアルのワークショップ要旨の公表(欧州化学品庁(ECHA))

ECHAは、2014年に開催したナノマテリアルに関するワークショップの要旨「TOPICAL SCIENTIFIC WORKSHOP Regulatory Challenges in the Risk Assessment of Nanomaterials Proceedings, 23 - 24 October 2014, Helsinki, Finland」を公表した。

[http://echa.europa.eu/documents/10162/5399565/ws\\_proceedings\\_nanomaterials\\_en.pdf](http://echa.europa.eu/documents/10162/5399565/ws_proceedings_nanomaterials_en.pdf)



### ③ ナノ材料の人健康影響における種間差に関するプレガイダンスを公表(OECD)

OECDは、ナノ材料の人健康影響における種間差に関するプレガイダンス「Preliminary guidance notes on Nanomaterials: Interspecies variability factors in human health risk assessment」を公表した。

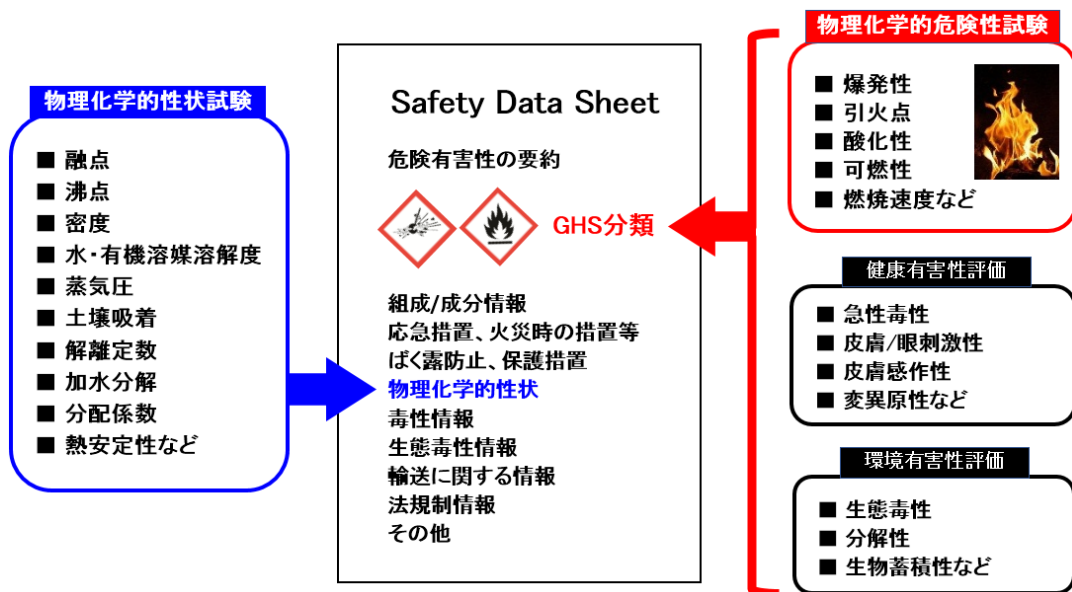
[http://www.oecd.org/officialdocuments/publicdisplaydocumentpdf/?cote=env/jm/mono\(2015\)31&doclanguage=en](http://www.oecd.org/officialdocuments/publicdisplaydocumentpdf/?cote=env/jm/mono(2015)31&doclanguage=en)

<http://www.oecd.org/science/nanosafety/publicationsintheseriesonthesafetyofmanufacturednanomaterials.htm>

## 特集 ⑤⑩ : GHS/SDS 対応 CERI のサポートメニュー第5回(物理化学的危険性試験)

6月号より、GHS(化学品の分類及び表示に関する世界調和システム)による危険有害性の分類とラベル表示、安全データシート(SDS)の作成に係るCERIのサポートメニューを紹介しております。今月号では、物理化学的危険性に係る試験をご紹介します。

CERIでは、融点、沸点、蒸気圧などSDS記載用の物理化学的性状試験に加え、爆発物(等級1.1~1.6)、引火性液体(区分1~4)など16種類のGHS区分を決定するための物理化学的危険性試験があります。GHS分類により危険有害性の可能性のある物質については、「国連の危険物輸送に関する勧告(通称オレンジブック)」に基づいた表示等を行うことで、国内法(航空法や海上輸送)への対応も可能となります。試験・調査のプランニングから試験データの取得、SDS作成までのトータルサポートで対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。



### お知らせ

○雑誌掲載 マテリアルステージ2015年9月号に「消費者製品中化学物質のリスク評価～衛生用品中パルプ由来のダイオキシン類を対象として～」が掲載されました。 [http://www.gijutu.co.jp/doc/magazine/m\\_2015\\_09.htm](http://www.gijutu.co.jp/doc/magazine/m_2015_09.htm)

○ICH M7に関するセミナーの開催 平成27年10月30日(金)、東京都品川区(きゅりあん)において開催されるセミナー「ICH M7変異原性不純物評価における判断・アプローチ方法と分析(実践)」で菊野職員が講師を務めます。  
<http://www.science-t.com/st/cont/id/24429>

○米国向けGHS対応ラベル・SDS作成セミナーの開催 平成27年10月14日(水)、東京千代田区(中小企業振興公社)において開催されるセミナー「米国向けGHS対応ラベル・SDS作成」で吉川職員及び石井<sub>か</sub>職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方はご連絡ください。  
[http://www.johokiko.co.jp/seminar\\_medical/AA151067.php](http://www.johokiko.co.jp/seminar_medical/AA151067.php)

○2015年度化学品管理のためのQSARセミナー(基礎編) 平成27年10月9日(金)、日本化学工業協会主催のセミナー「2015年度化学品管理のためのQSARセミナー(基礎編)」で赤堀職員が講師を務めます。  
<https://www.jcia-seminars.org/contents/item/83>

ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

**CERI** 一般財団法人 化学物質評価研究機構  
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル7F

安全性評価技術研究所 研究第二部

Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)

URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: [cac-reach@ceri.jp](mailto:cac-reach@ceri.jp)